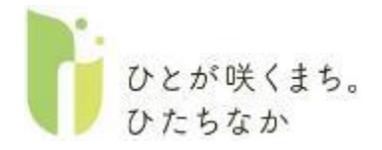
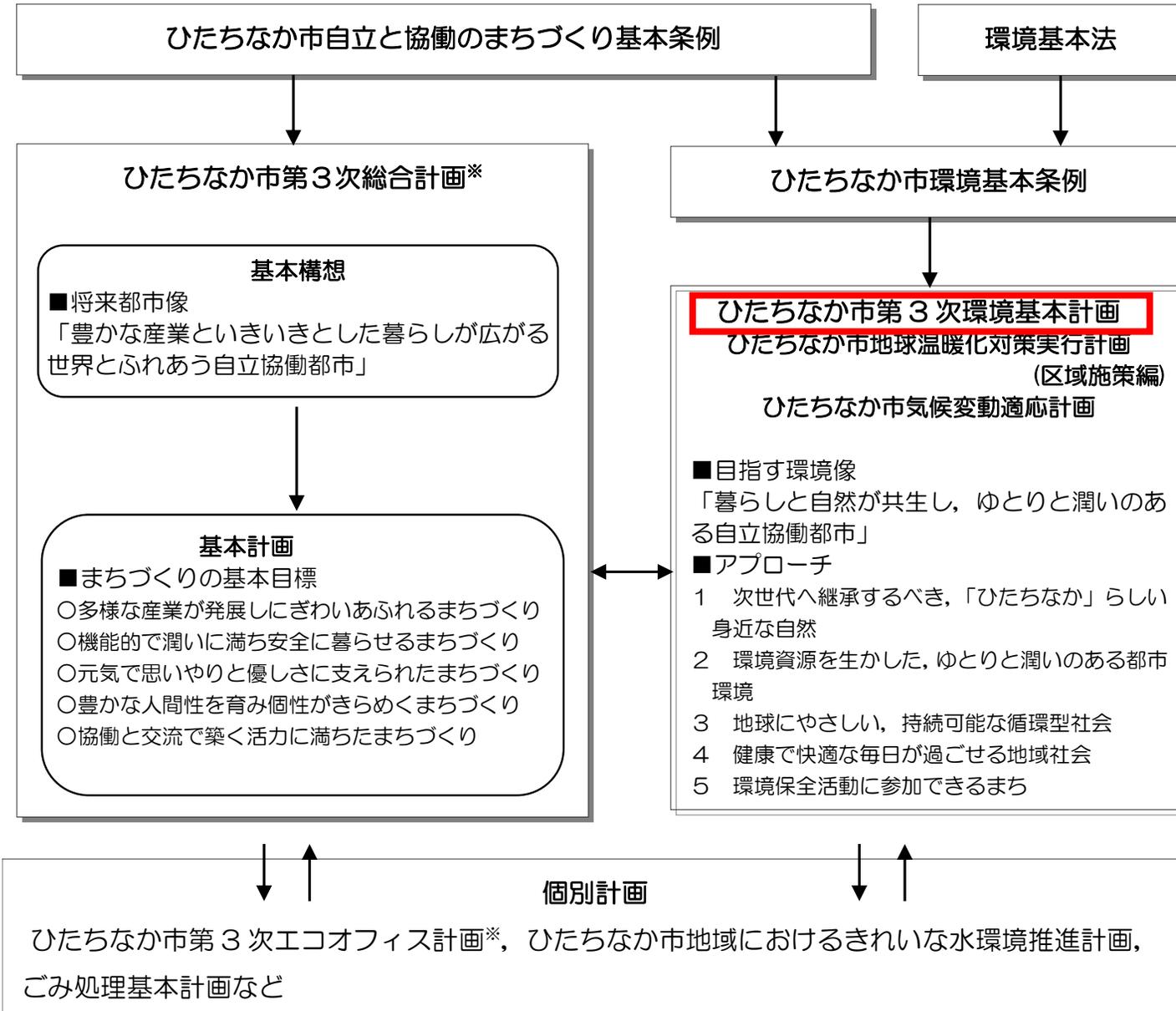


# 市第3次環境基本計画の改定について



経済環境部環境政策課

# 第3次環境基本計画の位置づけ



## 市域の環境に関する基本の計画

### 第3次環境基本計画策定時に

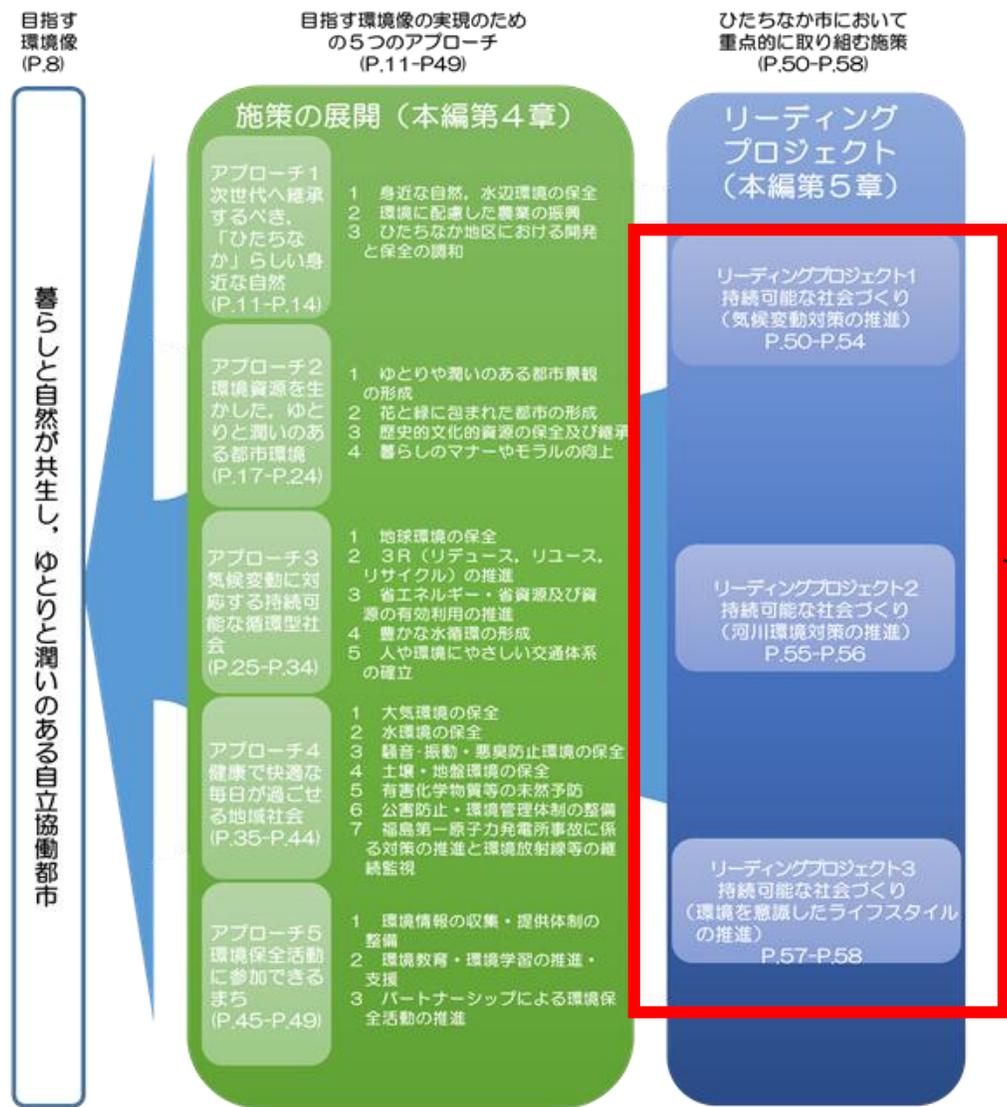
「地方公共団体実行計画(区域施策編)」

→ 脱炭素に係る計画

「気候変動適応計画」

→ 熱中症対策や台風の激甚化に備える対策に係る計画を包含する形で策定

# 第3次環境基本計画の概要



5つのアプローチの中で、特に重点的に取り組む施策を「リーディングプロジェクト」と位置づけた。このリーディングプロジェクトを達成することにより、目指す環境像の実現をより確実なものとしている。

- 気候変動対策の推進  
脱炭素対策，気候変動対策等
- 河川環境対策の推進  
河川環境の改善等(BODなど)
- 環境を意識したライフスタイルの推進  
環境学習や市内の環境活動を推進

# 改定にあたっての方向性

V やすらぎと潤いにあふれ 快適に暮らせるまちづくり

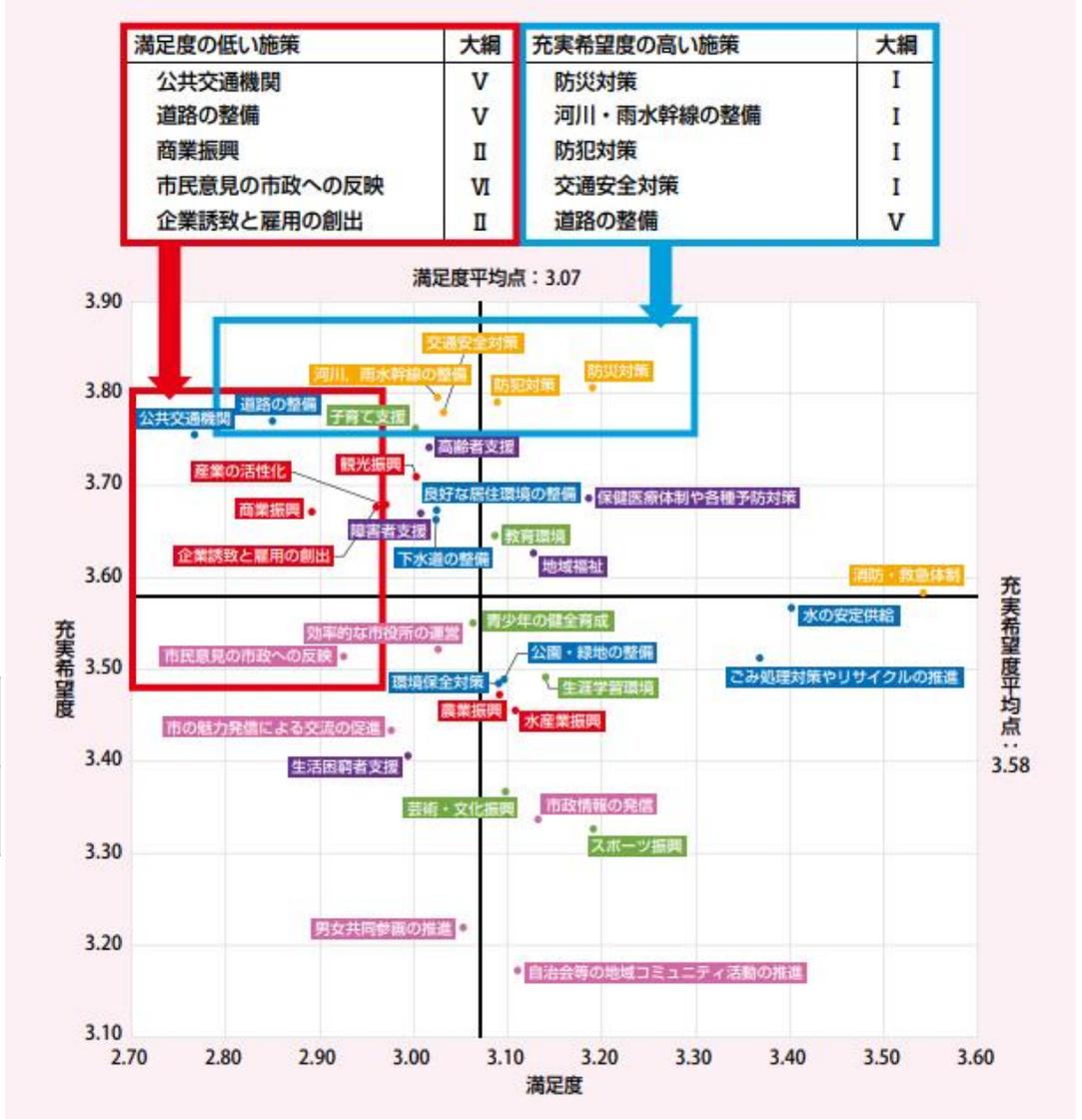
取組：環境保全意識の啓発

計算方法・・・5とてもよい, 3普通など5段階評価をアンケートにより実施し, 平均点を抽出

成果指標：環境保全対策に関する市民満足度

R2現 状値	3.09	R3目 標値	3.10	R4目 標値	3.11	R5目 標値	3.12	R6目 標値	3.13	R7目 標値	3.14
		R3実 績値	3.04	R4実 績値	3.14	R5実 績値	3.13	R6実 績値	3.25	R7実 績値	

総合計画の結果から, 一定の環境に関する満足度は達成できていることが分かる。



# 改定にあたっての方向性

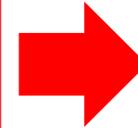
- 現行計画の考え方を継続しつつ、施策のアップデート。
- リーディングプロジェクトの目標等の精査。

## 現行リーディングプロジェクト施策

- 気候変動対策の推進 ⇒改定済  
脱炭素対策, 気候変動対策等

- 河川環境対策の推進  
河川環境の改善等(BODなど)

- 環境を意識したライフスタイルの推進  
環境学習や市内の環境活動を推進



今回報告

# 河川環境対策の推進

## 振り返り（令和1～6年度）

取り組んだこと	結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公共下水道公共下水道や合併浄化槽などの普及</li> <li>◆環境学習の推進</li> <li>◆早戸川の水質改善に向けた調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆汚水処理人口 89.6% → 92.98%</li> <li>◆BOD達成率 83% → 83%</li> <li>◆早戸川の水質はN-BODが高い傾向にある</li> </ul>

## 変更について

令和7年度から始まった「ひとが咲くまち。ひたちなか」居住環境推進計画に合わせる

実施内容	計画目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆早戸川水質汚濁の原因究明</li> <li>◆環境負荷軽減活動の推進</li> <li>◆環境学習の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市域河川の環境基準（BOD）達成率（5河川6地点）</li> <li>◆汚水処理人口普及率の向上</li> </ul>

### （実施内容）早戸川水質汚濁の原因究明

変更前	変更後
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆水質汚濁の原因を早急に究明し、対策を講じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆N-BODの基になるアンモニア等の流入が減るよう事業所等へ下水道への転換を促す</li> </ul>

# 河川環境対策の推進

## (実施内容) 環境負荷軽減活動の推進

変更前	変更後
◆汚水処理人口普及率を向上させ、河川環境の保全に努める	◆河川環境基準点測定地点の透視度50度以上達成率を維持し河川環境の保全に努める

## (実施内容) 環境学習の推進

変更なし

## (計画目標) 市域河川の環境基準 (BOD) 達成率 (5河川6地点)

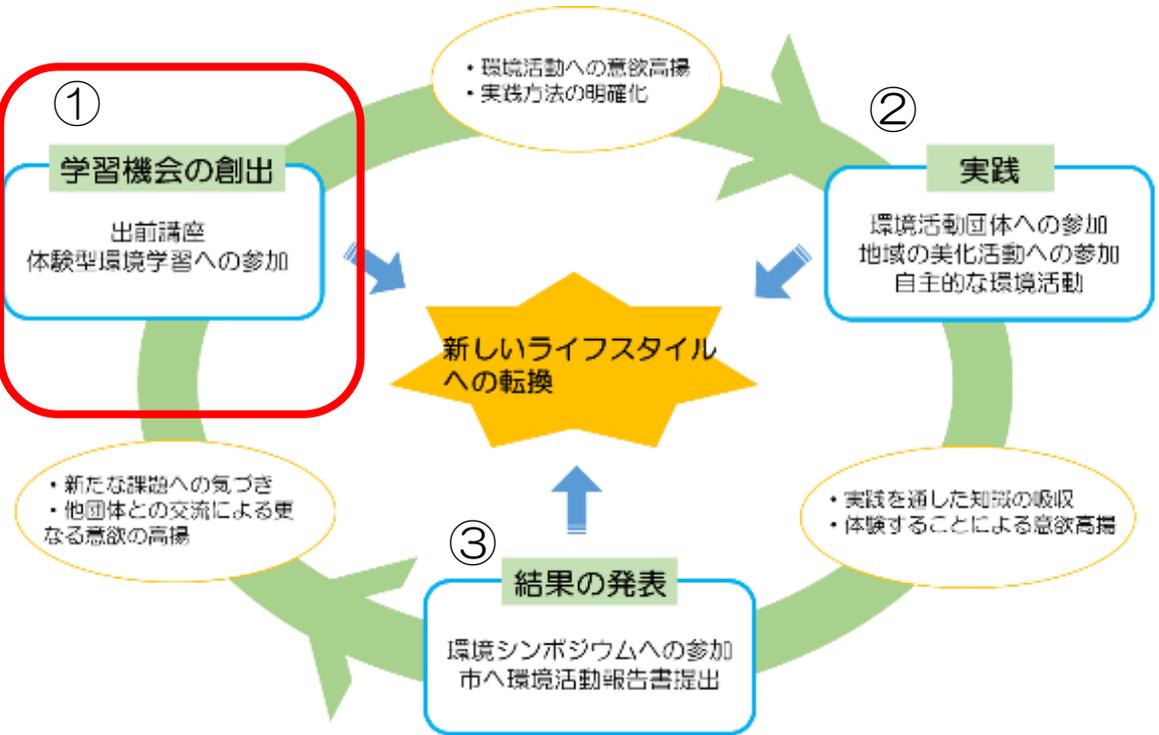
変更前	変更後
◆目標値 (2030年度) 100%	◆目標値 (2030年度) 83%以上

## (計画目標) 汚水処理人口普及率の向上

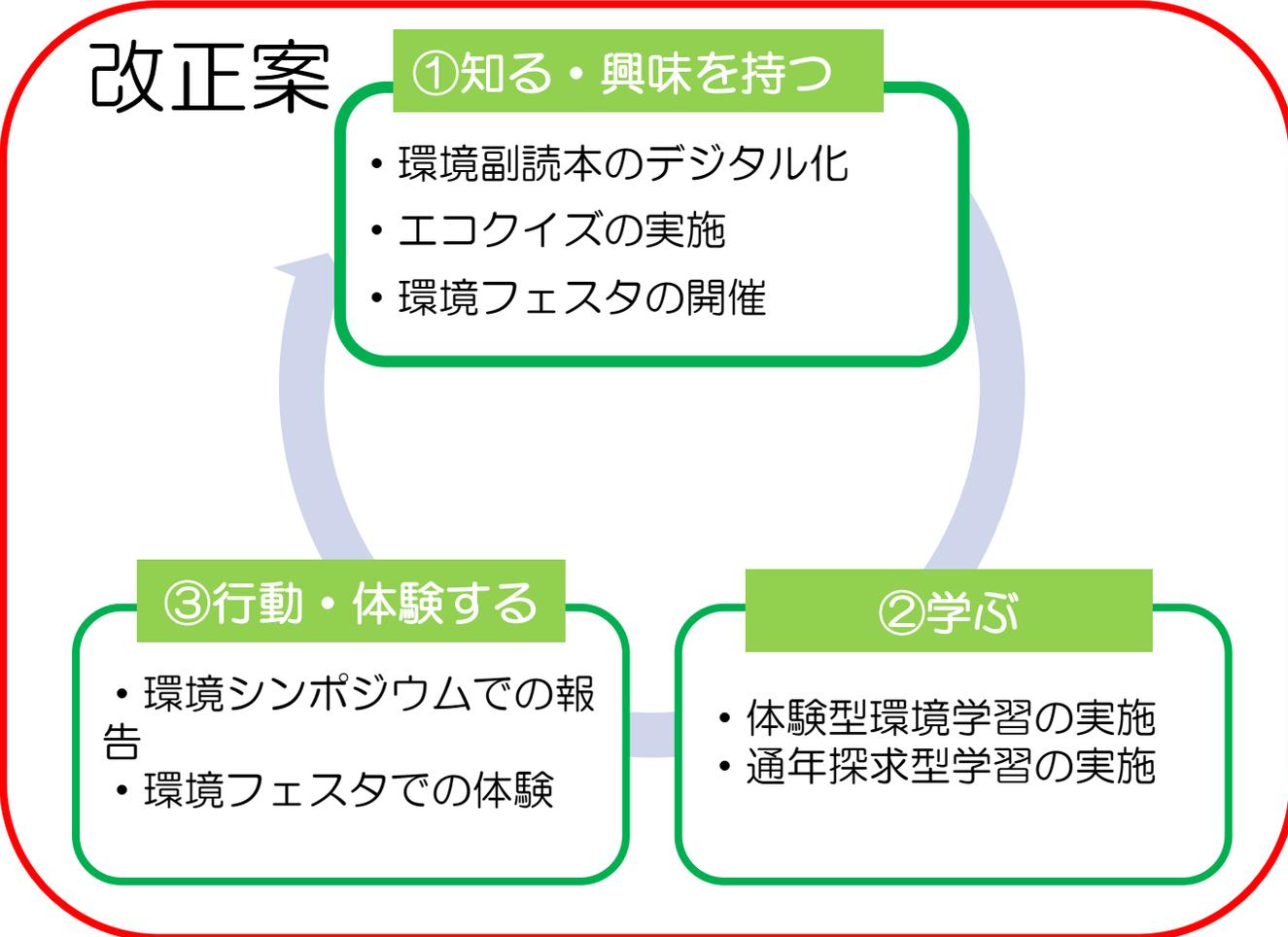
変更前	変更後
◆汚水処理人口普及率の向上	◆河川環境基準点測定地点の透視度50度以上達成率の維持

# 改定の概要(環境学習)

## 従来



## 改正案



従来, サイクルを回すために目標値を①にのみ設置していたが, 改正案では, 全てのサイクルに目標値と施策を設置

# 改定の概要(環境学習)

## 現計画

- ① 学習機会の創出
  - 環境学習の推進
    - ・ 出前講座の開催
    - ・ 体験型学習の推進
    - ・ 出前講座+体験型の推進

目標	現況値	目標値(2030年度)
出前講座実施数	3か所	8か所

- ② 実践
  - 環境活動の情報提供の充実
    - ・ 市ホームページによる活動周知
    - ・ 環境イベントの協働開催, 情報提供

- ③ 結果の発表
  - 環境活動発表の機会の提供
    - ・ 環境シンポジウムの開催
    - ・ 環境活動の紹介

## 改定案

- ① 知る・興味をもつ
  - ・ デジタル副読本の導入
  - ・ エコクイズの実施
  - ・ 環境フェスタの参加

目標	現況値	目標値(2030年度)
クイズ参加者	0名	累計3,000名

- ② 学ぶ
  - ・ 体験型学習の実施
  - ・ 通年探求型学習の実施

目標	現況値	目標値(2030年度)
体験型参加人数	8回	累計990名
探求型チーム数	0チーム	累計10チーム

- ③ 行動・体験する
  - ・ 環境シンポジウムの報告機会創出
  - ・ 環境フェスタの開催

目標	現況値	目標値(2030年度)
アンケート結果	30%	50%

## 目的

「①学習の機会の創出⇒②実践⇒③結果の発表」

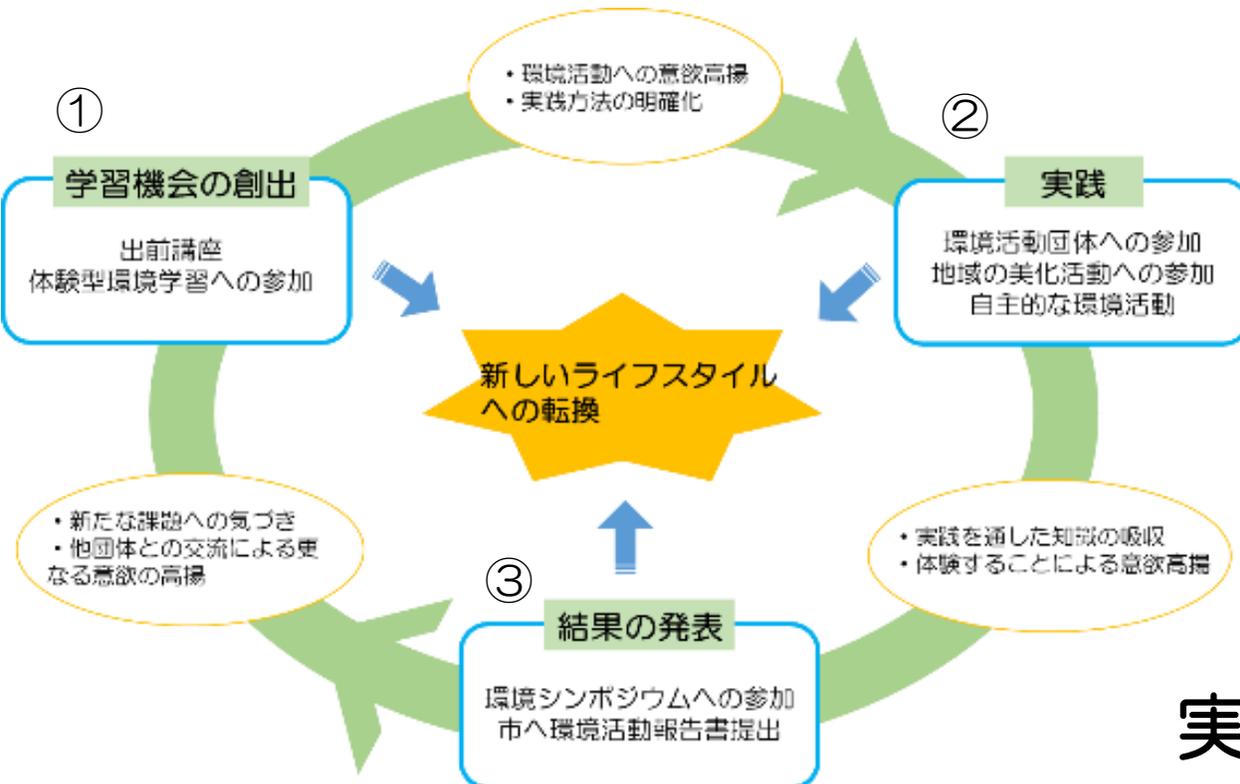
- ① 環境への導入
- ② 自発的に実践
- ③ 行動の結果を報告

## 目標

2030年 出前講座を8か所で開催

## 実績

R3:2回 R4:4回 R5:3回 R6:9回 R7:2回(予定)



- 対象者：① 市内に在住，通勤・通学している方  
② 市内小学5年生及び義務教育学校5年生  
市内中学2年生及び義務教育学校8年生  
③ 市内事業者

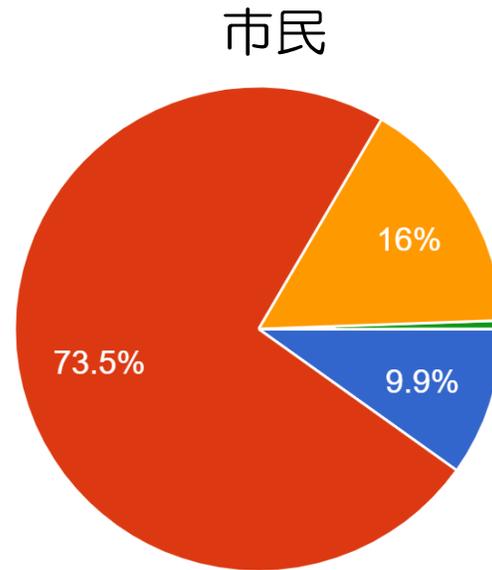
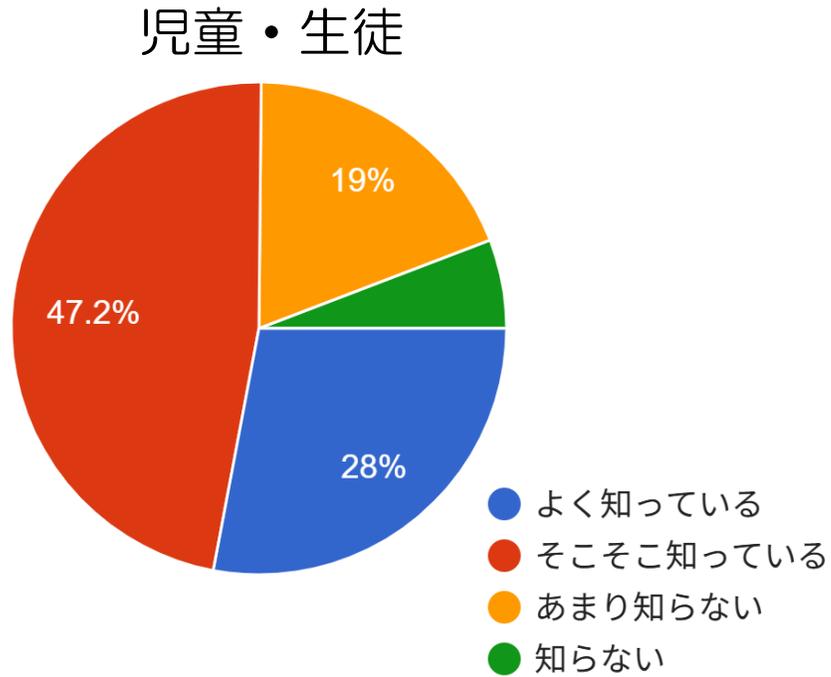
期間：令和7年6月18日(水)から7月2日(水)まで

- 回答者：① 785名  
② 1,320名  
③ 41事業者

アンケート内容：地球におきている環境問題を知っていますか。  
：環境に良い行動を行おうとしたけれど、できなかったことはありますか。

# アンケート結果(抜粋)

Q1 地球におきている環境問題を知っていますか。



Q4 具体的にどのような環境に良い行動をしていますか？

具体的には

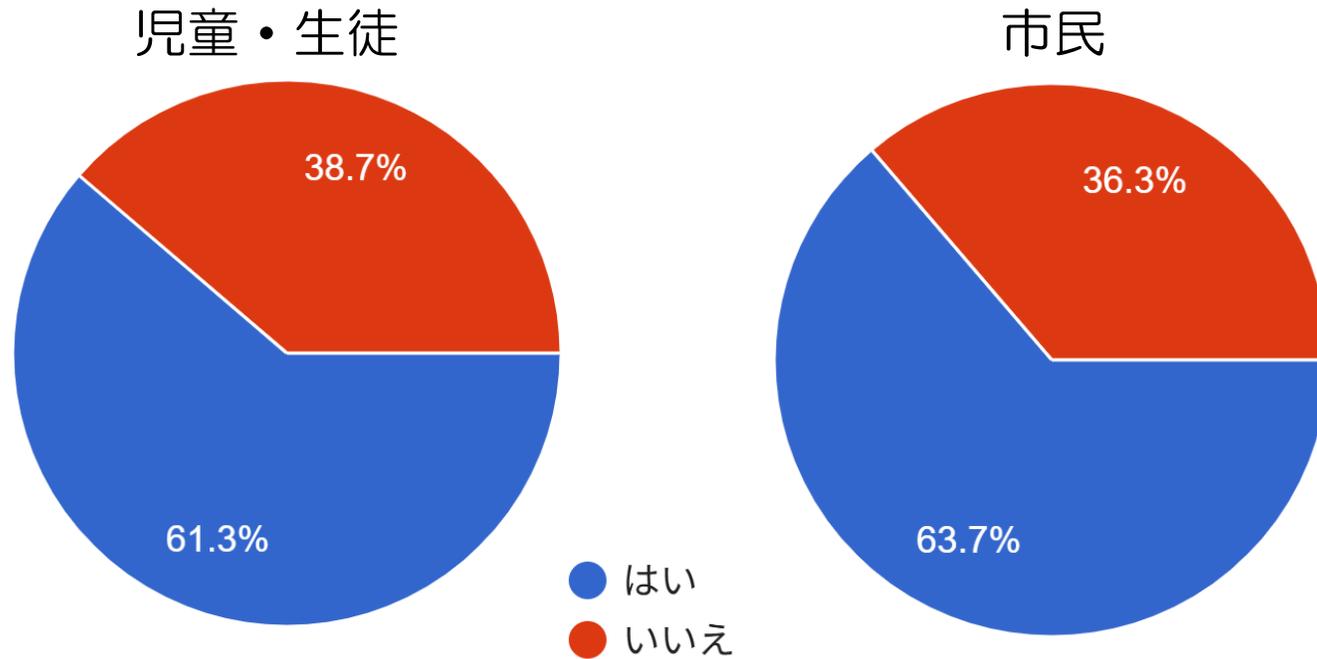
- ごみの分別
- 節水・節電
- マイバック
- 植物育成
- 環境によい製品を選ぶ

などなど。

環境に関する興味関心を持っている人が  
児童・生徒75.2%，市民83.4%いることが分かった。

※ 前回(R2)は，集計方法が異なるが，児童生徒が70.2%，市民が約72.2%

Q6 環境に良い行動を行おうとしたけれど、できなかったことはありますか。



Q6-1

環境に良い行動ができなかった理由  
(複数回答可)

児童・生徒

- ①どの方法が環境に良いかわからなかった。  
613件
- ②お金がかかる  
154件

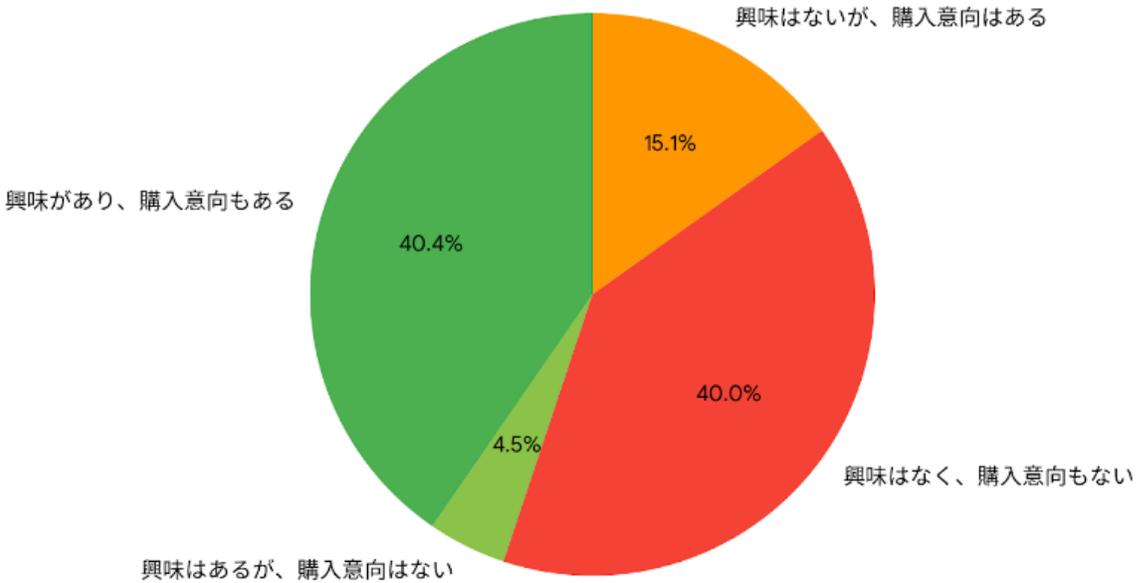
市民

- ①どの方法が環境に良いかわからなかった。  
258件
- ②お金がかかる  
237件

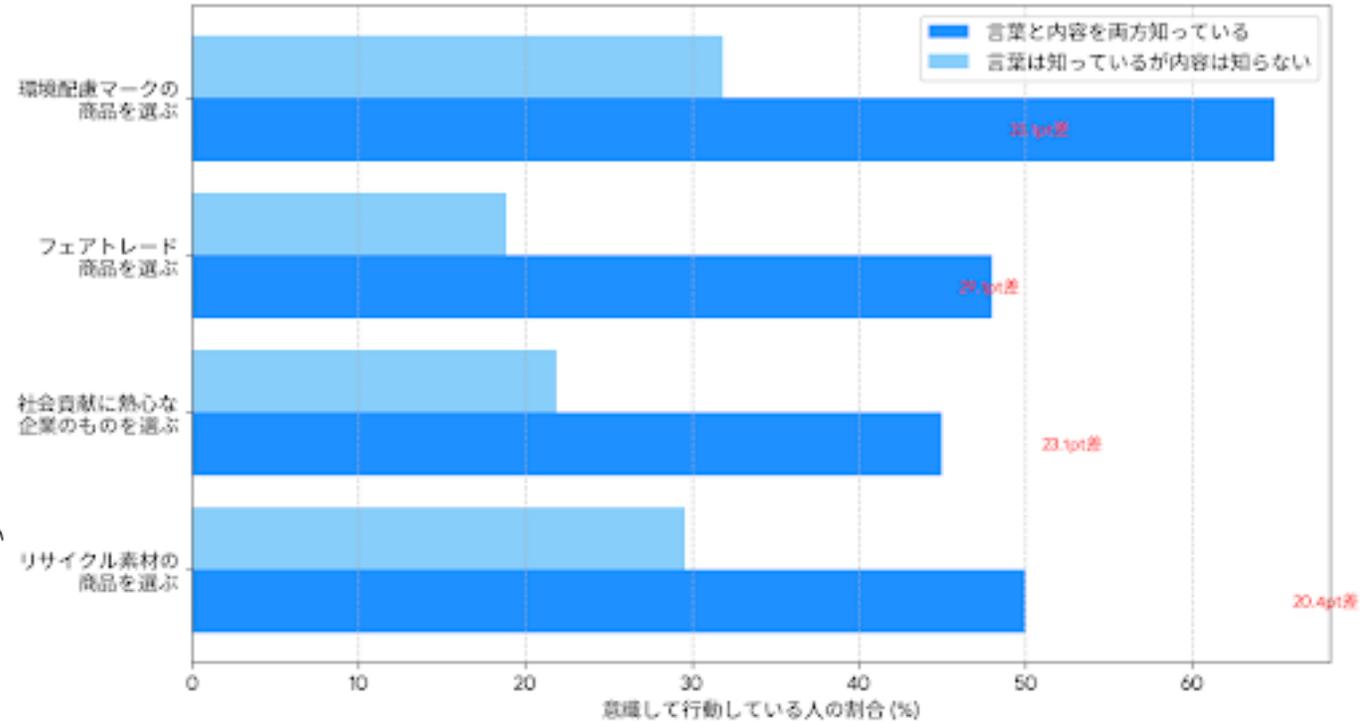
市民・児童生徒の興味関心の醸成は実施できているが、方法や手法が不鮮明であるために、実行に移すことができないことがあることが分かった。

# 消費者庁のアンケート結果(抜粋)

エシカル消費への興味と購入意向の関係

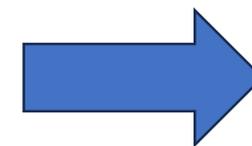


エシカル消費の認知度と行動意識の比較



※グリーン志向の消費行動に関するワーキングチーム 第3回 グリーン志向の消費行動に関するワーキングチーム(2025年01月14日)よりデータを加工

- 環境に関する興味がある方がより、環境に関する行動を実施する。
- 内容を知っている人の方が、倍近く行動を実行する。



興味は維持しつつ、  
学びの加速化を実施する

## ①知る・興味を持つ

- 環境副読本のデジタル化
- エコクイズの実施
- 環境フェスタの開催

## ②学ぶ

- 体験型環境学習の実施
- 通年探求型学習の実施

## ③行動・体験する

- 環境シンポジウムでの報告
- 環境フェスタでの体験

## ◎ 市民の「意識」を「行動」へ

◎ サイクル① (知る)



◎ サイクル② (学ぶ)



◎ サイクル③ (行動・体験)

改定計画では、すべてのサイクルに施策・目標を掲げる

## ◎ 環境副読本※のデジタル化

GIGAスクール構想に基づき、各学校には、タブレット・電子黒板が配備済み

➡ 紙からデジタル変更により、使用頻度の向上を狙う。

※環境副読本：市の環境に関する情報をまとめた副教材  
小学1-3年，小学4-6年，中学1-3年向けにそれぞれ作成している。

## ◎ エコクイズの実施

- Googleフォームでのクイズ参加。
- 教員の負荷を最小限にするため、Home&school※を活用。  
※ Home&school・・・保護者が登録している学校からの連絡を受け取るアプリ。
- 参加者には、抽選で50-100名に粗品をプレゼント。抽選1名は図書カード等を想定。

項目	現状	初年度	2030年目標値
クイズ参加者	0	500名	累計3,000名

## ◎ 環境フェスタの参加

従来の発表形態からの脱却 ⇒ 体験型ブースを増設

発表形態ではなく、体験型にすることでイベント参加のハードルを下げ、知る・興味を持つ機会の増加を狙う

## ◎ 体験型学習の実施

従来 市職員による講義

東京ガス株式会社提供：燃料電池の作り方など

➡ 民間の実験などを取り入れた授業を展開する

項目	現状	初年度	2030年目標値
体験型環境学習の参加人数	8回	8回×30人 ⇒240名	累計33回×30人=990名



## ◎ 探求型学習参加

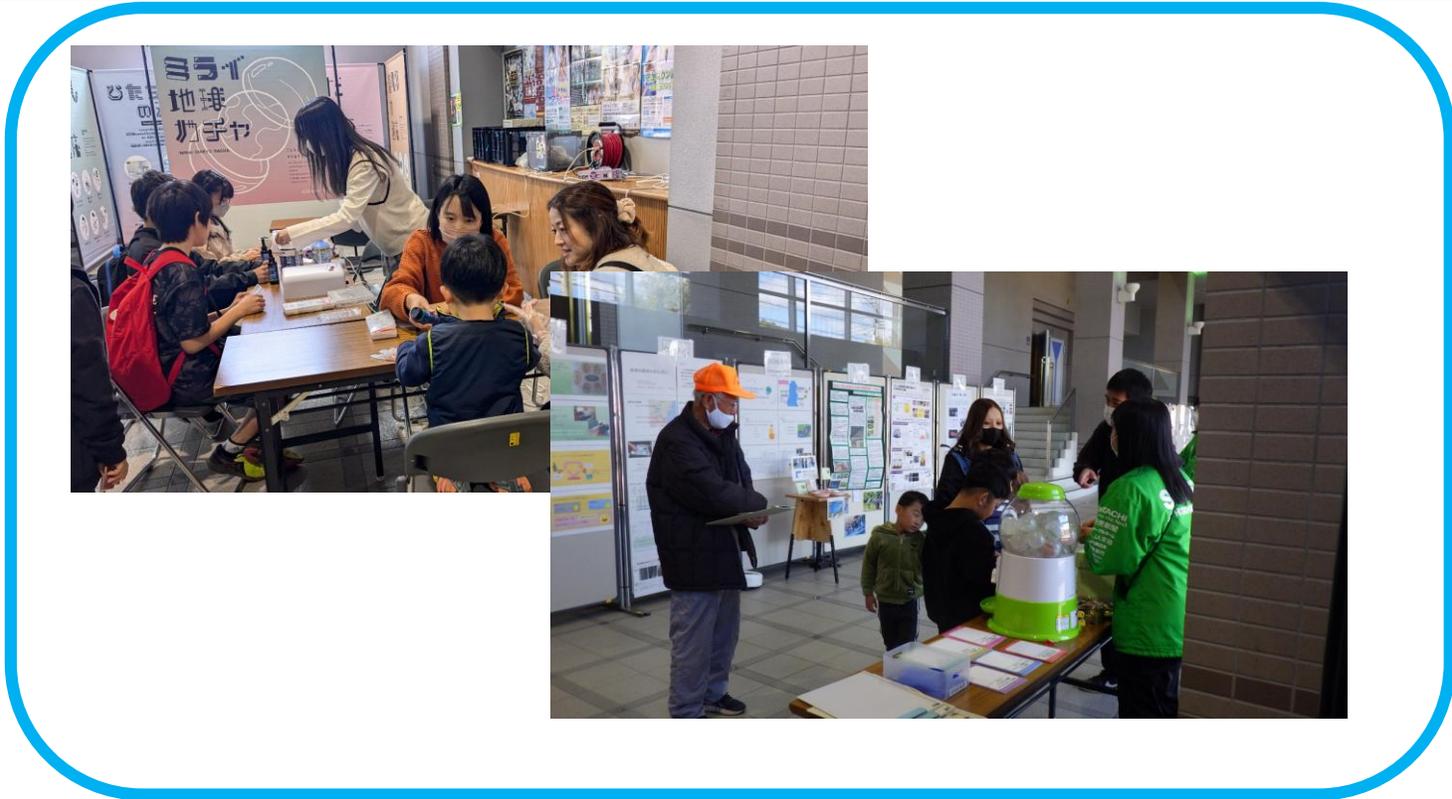
通年型のプログラムを創出

- ・民間企業・学校等と連携し、年間を通じた「探求型」の学習の場を提供
- ・ラーケーション※を活用し、親子による参加を促す。

※ ラーケーションとは、平日に保護者と校外で体験活動を行う日のこと。

項目	現状	初年度	2030年目標値
探求型学習参加チーム数	0チーム	実行計画策定	累計10チーム

# ③ ～行動・体験する～ 環境シンポジウムでの報告



イベントの一新。発表形式は一つのブースとして、体験型ブースの拡充を目指す。  
アンケートにて、環境に関する手法や興味の上を推進する。

項目	現状	初年度	2030年目標値
③環境フェスタ来場者のアンケート結果	約37%	確認	約50%

- ◎ 商工会議所と連携し、市内企業のニーズ把握及び経済産業省や環境省等と連携した「国の補助金説明会」等を企画・実施する。
- ◎ 市民への情報提供として、包括協定を結んでいるBtoC企業への、ポップアップ等の協力依頼
- ◎ 市のHPに企業の環境に関する情報などを掲載
- ◎ 市のHPに省エネの方法等を掲載

- 環境保全推進委員会(副市長トップの部長級会議)の開催  
11月中旬程度を想定
  
- 第3回環境審議会(答申)  
12月下旬(18日以降)予定
  - ・改定案の策定, 答申
  
- パブリック・コメント(答申の意見反映後)  
翌年1月中旬から翌年2月中旬予定
  
- 改定決定(パブリック・コメント反映後)  
3月末予定